

第9回全日本ブラックアンドホワイトショウに神奈川県酪農家が乳牛を出品し上位入賞しました

平成30年4月13日（金）、14日（土）に、御殿場市馬術・スポーツセンターで、第9回全日本ブラックアンドホワイトショウが開催され、神奈川県酪農家が飼養する乳牛を10頭（未経産4頭、経産6頭）出品しました。

全日本ブラックアンドホワイトショウは5年に1回の酪農家による品評会で、乳牛が一同に会し改良の度合いを競うものです。今回は2018セントラルジャパンホルスタインショウと共同で開催されました。北海道から九州まで全国から約200頭の乳牛が出品され、月齢や年齢に応じて12部類に分けて審査が行われました。

神奈川県からの出品牛は、各地域の予選を経て、3月18日（日）に行われた神奈川ブラック&ホワイトショウの上位牛から選出されました。日頃の飼養管理と調教、当日のコンディション管理が適正に行われた結果、経産クラスの4歳以上5歳未満の部で2位ベストアダー（乳器賞）になる活躍をみせました。ほかにも未経産クラスの12月以上15月未満の部で3位、経産クラスの2歳半～3歳未満の部で4位、3歳半～4歳未満の部で5位、5歳以上の部で4位と5頭が入賞を果たしました。

普及指導課では、各地域で市町やJA、市町畜産会、改良同志会が主催する地域共進会やブラックアンドホワイトショウにおいて審査や審査補助を行うほか、適正な飼養管理にむけた飼養環境の整備や管理技術改善の助言を行っています。

県内の酪農家戸数は、減少していますが、県民に安全で安心な美味しい生乳を提供するために改良をすすめ、その結果として乳牛の能力は着実に向上しています。



写真：左から、出品にむけた毛刈り、審査の様子、4歳以上5歳未満の部2位の牛

備考

普及指導課では、乳牛の改良を進展させるために、優良系統牛からの計画的な後継牛確保を推進しています。必要に応じて、企画研究課と連携し、酪農家飼養牛のOPU（経膈採卵）の実施についても支援しています。